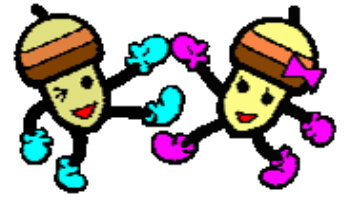


どんぐり



パークセンターだより 第92号 2008年8月・9月号

美しい個性派ルリビタキ

自然解説員
直井 宏

「ルリビタキ」はスズメ目ツグミ科で全長14センチ、名前のように光沢のあるルリ色をした美しい鳥です（雄）。

他の鳥と比べてルリビタキは雌タイプの羽毛個体が多く見られますが、ルリ色の美しいオスの成熟羽になるまでに2年程、稀に3年かかる個体もいるからです。「ルリビタキ」は「21世紀の森と広場」でもカワセミと共に大変人気のある鳥です。留鳥のカワセミは1年を通して観察する事が出来ますが、漂鳥のルリビタキは3月の中旬から11月の上旬頃まで残念ですが見る事が出来なくなります。



ルリビタキ（雄）

繁殖は四国以北、本州の1,500m以上の亜高山帯から一部高山迄と緯度の高い北海道では平地から亜高山帯迄の針葉樹林の岩のくぼみ、倒木や露出した根の隙間などにコケ類、草木のツル、針葉樹の葉、羽毛などで作った碗形の巣に3~6個を産卵して、雌だけが抱卵します。孵化した後は雄と雌が共同で雛に餌を運び子育てをします。この時に巣に持ち帰る餌は青虫、昆虫、クモなど高タンパクで消化の良い物です。

「アトリ科」や「ホオジロ科」の鳥達のように非繁殖期には植物の種子や木の実が主な餌の鳥も繁殖期の子育て中には食性が変わって雛に与える餌と同じ動物質の高タンパクで消化吸収の良い物が多くなります。「シメ」や「イカル」が固いムクの実などを砕く大きくゴツツイあの嘴で捕えた小さな青虫を雛に与

える様子を想像して下さい、なんとも微笑ましいですね……。いつもは林縁や低木のある草地にいる「ホオジロ」が林の中で良く見られるのも、子育ての餌を捕るためです。

一般的に亜高山帯の「コメツガ、シラビソ、カラムツ」等の針葉樹林で繁殖する「ルリビタキ、コマドリ、カヤクグリ、キクイタダキ、ウソ、メボソムシクイ」などは繁殖期間が長く8月に入ってからでも囀りを聞く事があります。これは標高が1000m上るごとに0.6℃気温が下がりますので1,500mの亜高山帯から2,000m以上の高山では平地よりも9～12℃気温は低くなり、気象状況はより不安定になるために繁殖期間が長くなったと考えられます。

ルリビタキはその中でも別格です。本州中部の亜高山帯では9月に入ってから繁殖した例や、10月に幼羽根の個体が現れたり、1993年12月には福井県と京都府の県境附近の丘陵地で多数の囀りを聞かれたそうです。2001年12月上旬に千葉県「東庄県民の森」近くの「夏見の堰を埋め尽くす「マガモ」の群を友人と観察に行った時、隣接するお寺の境内で3時を過ぎ、梢だけに陽の当る横枝で囀るルリビタキと同時に周囲でも囀る数羽の声を聞いた事がありました。他の鳥にない習性を持った個性派の可愛らしい鳥です。

鳥の囀りには繁殖期に雌を引き寄せるラブコールと攻撃的な縄張りを主張する二種類がありますが、越冬時期の囀りは後の例です。

秋に北海道から越冬地に戻るルリビタキは、10月中旬から11月上旬にかけて函館山を通過して津軽海峡を渡り目的地を目指す事が知られています。

21世紀の森と広場には例年11月上旬に姿を見せます。ルリビタキはうす暗い木立の中や斜面林の低い平坦な場所で落葉が積っている所や日差しが少ない植込みなどで雌雄それぞれに縄張りを持って生息していますので散策路を歩きながらの観察になります。人間をあまり恐れない鳥ですので近くで見る事が出来ます。同じツグミ科の「シロハラ」(24cm)と生息域が重なりますので同時に会えることもあります。



シロハラ

京菜（キョウナ）

みどりの相談員
小林喜代次

性質

関東では京菜と言いますが、関西では水菜と言います。

葉柄は細くて白く、葉は緑で細かい切れ込みが多く、株分かれが盛んで大株になります。

耐寒性が強く初冬から春の野菜として、浅漬けや鍋ものに利用される野菜です。小株どり系統と大株どり系統があります。

つくり方

土づくり

堆肥などの有機質肥料を多く入れ、化成肥料を m^2 あたり 100～150 g を施し、よく耕して準備します。

タネまき

タネまき適期は9月上～中旬、発芽温度は15～25 で生育は涼しい気候が適し、寒さには強いが、暑さと乾燥には弱い野菜です。

まき方は畝幅60 cm、すじまきの直まきの方が手入れが楽です。

手入れ

間引き 間引きを数回して25～30 cmの株間にします。

水分の補給 水分が不足するとよいものができませんので、株元に敷わらなどしたり、乾燥が続くときは水やりをします。

追肥 化成肥料か液体肥料(チッソ肥料の多いもの)を1～2回。

病害虫防除 病害虫防除 アブラムシは早めに防除しましょう。

収穫 12月より3月にかけて楽しい収穫です。



パークセンター8月・9月の催し物



催し物名	日 時	定員	講 師	費用	受 付
園芸教室 「常緑樹の挿し木～椿の小品盆栽を作る～」	平成 20 年 8 月 9 日(土) 13:30～15:00	20 名 (要申込)	みどりの相談員 野口 宣二氏	無料	7/15～ (受付終了)
野草ウォッチング (雨天時は屋内)	平成 20 年 8 月 10 日(日) 10:00～11:30	当日先着 25 名	自然解説員 藤田 泰氏	無料	当日
昆虫ウォッチング (雨天時は屋内)	平成 20 年 8 月 17 日(日) 10:00～11:30	25 名 (要申込)	自然解説員 馬場 友希氏	無料	8/1～
森のクラフト教室 「ひょうたん作品づくり」 壁掛け又は置物づくり (コーラベース塗り) 笛づくり	平成 20 年 8 月 17 日(日) 10:00～12:00	要申込 中学生以上 20 名 小学生まで 当日先着 50 名	松戸瓢箪村	1,000 円 無料	8/1～ 当日
こども手づくり教室 「葉っぱや木の実で壁飾りを作ろう」	平成 20 年 8 月 21 日 (木)・22 日(金) 13:30～15:30	小学生 各日先着 50 名	ボランティア 辺の会	無料	当日
こども自然体験 「調べてみよう！ 木の二酸化炭素吸収量」 (雨天時は屋内)	平成 20 年 8 月 23 日(土) 10:00～12:00	小学生(4 年以 上) 25 名(要申込)	自然解説員 藤田 泰氏 川端 祥子氏	無料	8/1～
園芸教室 「家庭菜園 ～秋野菜の作り方～」	平成 20 年 8 月 23 日(土) 13:30～15:30	45 名 (要申込)	みどりの相談員 小林 喜代次氏	無料	8/1～
昆虫ウォッチング (雨天時は屋内)	平成 20 年 8 月 24 日(日) 10:00～11:30	25 名 (要申込)	自然解説員 吉岡 明良氏	無料	8/1～
園芸教室 「秋まき草花をタネから作 ってみよう！」	平成 20 年 9 月 6 日(土) 13:30～15:30	25 名 (要申込)	みどりの相談員 青島 尚祐氏	無料	8/15～
昆虫ウォッチング (雨天時は屋内)	平成 20 年 9 月 21 日(日) 10:00～11:30	当日先着 25 名	自然解説員 吉岡 明良氏	無料	当日
野草ウォッチング (雨天時は屋内)	平成 20 年 9 月 23 日(祝) 10:00～11:30	当日先着 25 名	自然解説員 藤田 泰氏	無料	当日
園芸教室 「そば打ち体験」	平成 20 年 9 月 26 日(金) 13:30～15:30	20 名 (要申込)	みどりの相談員 野口 宣二氏	1,500 円	9/1～
バードウォッチング (雨天時は観察舎)	平成 20 年 9 月 28 日(日) 10:00～11:30	当日先着 25 名	自然解説員 直井 宏氏	無料	当日

申込が必要な催し物につきましては、電話または直接パークセンターまでお申込下さい。

予定に変更が生じる場合がございますので、詳細はパークセンターまでお問い合わせ下さい。

8月に行われる「昆虫ウォッチング」は事前申込になっております。(9月からは当日受付になります)

行事に使われる植物たち(1)

8月～11月

自然解説員
川端祥子

日本には季節によって、また地域によって、昔から延々と受け継がれてきた様々な行事がたくさんあります。さらに近年では 地域を元気にさせようと新しく企画された行事もあります。その中から、だんだん親から受け継ぐことの少なくなった行事のいくつかを、いわれやしきたりをそこに使われる植物をとおして考えてみたいとおもいます。

8月にはいとすぐ紙面を賑わすのが「立秋」という言葉です。まだ暑い暑い夏の真っ盛りなのにもう秋？と思われるかもしれません。これは24節気(春、夏、秋、冬それぞれ六つに分けられ季節を表す言葉がつけられている。)のひとつで「秋の始まりの日」という意味をもっています。でもこれは明治時代より前に使われていた太陰暦(旧暦)といわれる月の満ち欠けを使ってつくられた暦のころに分けられたもので、明治以降使われている太陽の公転を使ってつくられた太陽暦(新暦)とではほぼ1ヶ月季節にずれができています。暑中見舞いは立秋の前に、立秋を過ぎると残暑見舞いになります。(8月7日頃です。)昔から受け継がれてきた様々な行事は、この旧暦の暦に従って執り行われていることが多いのです。

7月15日ははさんでそれぞれ2日間を「お盆」といって祖先供養の日として家族が集まって静かに過ごすようです。東京周辺では新暦の7月13日からを、その他の地域では8月13日からをお盆としているところが多いようです。お盆の初日の夕方には祖先の霊が迷わず帰ってこれるように門の前で迎え火を焚きます。このとき焚かれるのが「オガラ(または麻がら)」といってアサの茎の表皮を取り除いて乾かしたものです。これは茅葺き屋根や神社仏閣の銅葺き屋根などの下地材に使われる大切な材料です。この大切な材料を燃やして祖先を迎えるのです。これは16日の送り火のときにも使われます。そして、火の消える前に用意しておいたミソハギに水を含ませて周囲や帰ってきた霊を清めてから家に入ってもらうのだと聞いています。



マコモ

昔から禊ぎは水辺で行われることが多かったことから、お盆のころ水辺に咲くミソハギが使われたようです。そのためミソハギはミソギノハギとか精霊花と呼ばれることがあります。そして祖先の霊が家に帰っている間に霊の休み場所である墓の掃除をするのだそうです。一方霊が帰っている家では盆棚をつくり、その上に水辺に生えるマコモで編んだきれいなゴザを敷き、季節の野菜や果物、水やご飯などを供えます。ここで欠かせないのがキュウリでつくった馬とナスでつくった牛です。（昔はマコモを編んで馬や船をつくったそうですが）来るときは足の早い馬で、帰りはゆっくりと歩みの遅い牛で帰るとされているからです。このとき供えられた野菜や果物を海や川に流し霊に持って帰ってもらうのが「精霊流し」です。灯籠を流すところもあります。またこの時期に盛んに行われている



ハス

盆踊りは、お盆に帰ってきた霊を供養するために踊ったものといわれています。また盆花はお盆のときに供える花のことですが、ハスを中心にお盆のころに咲く野生の花を供えることが多かったそうです。

お彼岸は春と秋の二回、春分の日と秋分の日を以てそれぞれ三日ずつの一週間をさします。これは太陽が真西に沈むため、はるか西にあるといわれている極楽のことを思い、この期間に祖先を供養したり、法要が行われたことから始まったようです。彼岸とは仏教用語で悟りの境地に達することをさすそうです。このころ咲く花に赤いヒガンバナという植物があります。よく土手や田のあぜや墓地などに植

えられているのを見かけますが、この植物は毒をもっているため、野犬やネズミなどに穴をあけられたり、遺体を食われたりしないようにするため植えたとされています。もうひとつの理由は、球根の部分に含まれるデンプンが水にさらすことで食料になるため、飢饉のときのためにやたらに掘られない場所に植え大切にされていたようです。

「お月見」は旧暦の8月15日ごろの満月に秋の収穫物を供えススキやオミナエシ、キキョウなどの草花を供えて豊作を祈ったのが始まりではないかといわれています。特にサトイモを供えたことからこの日の月を「芋名月」ともいいます。

「十五夜」は15日の夜の満月だから。秋の七草はお月見のときにそなえる花と

して野に咲く花の中から選ばれたようです。このとき欠かせないのがお団子です。これはモチゴメではなくコメの粉を蒸してつくり、月と同じようにまん丸につくり、その年の月のかずだけ盛って供えるようですが、最近では十五夜の15をとって15個盛られることが多いそうです。

「二百十日と二百二十日」はそれぞれ立春の日から数えての日数です。この日は昔から非常に台風の来襲が多いことで知られています。特にイネにとっては実り始めるたいせつな時期にあたるため、台風がこないように神に祈るための祭りやお籠もりがあちこちの神社でおこなわれています。

「新嘗祭と神嘗祭」はどちらもその年の収穫を神に感謝する大切なお祭りです。新嘗祭は天皇がその年に収穫したコメやアワなどの穀類や新酒を神に供え、神と共に食事をし、収穫を神に感謝する宮中の儀式です。今は11月23日に行われています。神嘗祭は新暦の10月15日から10月25日にかけて伊勢神宮で行われる感謝祭のことです。全国の神社でも行われているようです。

「酉の市」は11月の酉の日に行われる鷲神社のお祭りで商売繁盛や開運招福を願う祭りといわれています。このとき縁起物で飾られた熊手が売られていますが、もともとはすぐ次の作業の準備に取りかからなければいけない農民むけに鋤や熊手を売ったのが始まりではないかといわれています。熊手は農作業のはじめに落ち葉を集めて堆肥をつくることから始めるので真っ先に必要になる道具なのです。タケでつくられています。

このほかには旧暦の九月九日を「重陽の節句」というのがあります。これは中国から伝えられたもので、「九」という縁起のいい日が重なることで「重陽」といい、この日に不老長寿の薬といわれるキクの花を浮かべた酒「菊酒」を飲みあったとつたえられています。これが日本に伝わり行事として行われるようになり、江戸の頃には節句のひとつとして民間にも広まっていったようです。そのなごりがこの時期にキクの品評会が各地で開かれているところに残っています。

オリンピックなどで優勝者にオリーブの冠が授けられることがあります。オリーブはギリシャ神話の「知と戦の神アテナ」の木とされ、キリスト教ではノアの方舟から放されたハトがオリーブの枝をくわえて帰ってきたことから地上に平和が戻ったことを知ったため「平和のシンボル」とされています。その枝を使ってアテナに戦争の終わったことを知らせた者に祝福を送ったのが始まりとされています。

さて、このような行事に使われる植物をこの園内でいくつ見つけれられるでしょうか。こんな歩き方をしてもおもしろいのではないのでしょうか。

ご来園の皆様へお願い

安全、快適に公園を利用していただくため、本公園ではいくつかのルールがあります。ルールを守って楽しく過ごせるようご協力をお願いします。

- 禁止されている事 -

- ・ **自転車**（キックボード含む）の乗り入れ
- ・ **ペット**の持ち込み
- ・ **ペットや他の場所で捕獲した動物を捨てること**
- ・ **テント**設営
- ・ **魚釣り**（たこ糸を使ったザリガニ釣りはできますが（テグス、釣りざおは不可）、使用した棒やたこ糸、エサなどは必ず持ち帰って下さい）
- ・ **動植物の採集**
- ・ **鳥や魚などへのエサやり**
- ・ **池への石投げ**
- ・ **コンロなどの火気類の使用**
- ・ **人に迷惑を与えるボール遊び等**
- ・ **ゴルフクラブの持ち込み**
- ・ **立入禁止区域への立入り**
- ・ **騒音を出すこと**
- ・ **施設を傷つけることや汚すこと**

- 注意してほしい事 -

- ・ **手荷物の放置**（カラスによるイタズラや盗難の恐れがあります）
- ・ **ハチやヘビに注意**（見かけたら静かにその場を離れて下さい。絶対に手や足で払ったりしないで下さい。）
- ・ **ランニング**（園路をふさいで走るなど、他の利用者の迷惑となる行為はご遠慮下さい。また、野草園など一部の場所ではランニングをご遠慮頂いております。）
- ・ **不審物、不審者**を見かけた場合は最寄りのゲートまたはパークセンターまで連絡してください。また、園内で**死んでいる鳥**を見かけた場合も連絡してください。（鳥には手を触れないでください）

発行日：2008年8月1日

発行：21世紀の森と広場パークセンター

開館：9：00～18：00

〔8月21日からは、
9：00～16：30〕

月曜休館（祝日開館/翌日休館）

〒270-2252 松戸市千駄堀269

TEL 047-345-8900

<http://www.city.matsudo.chiba.jp/>

- ・ ゴミは家までお持ち帰り下さい。
- ・ なるべく公共の交通機関をご利用下さい。

